

家のお手入れ



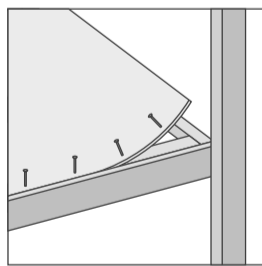
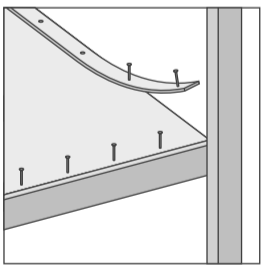
押入れの改造法

押入れはふとんの収納に適した規格で作られていますから、それ以外のモノをしまうと、意外と不便だったり、デッドスペースができたりします。そんなときは思い切ってリフォームして、モノがしまいやすく、出しやすい収納場所に変身させましょう。

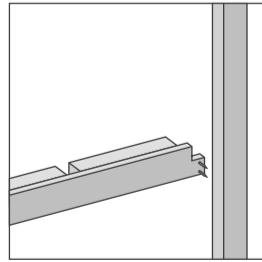
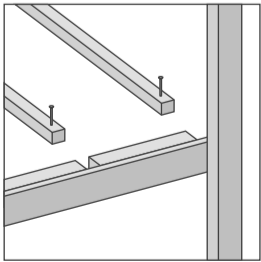
中段はずしかた

中段をはずせば、ワンピースやコートといった長い衣類をかけたリ、スキーやゴルフバックなど長いものを収納するのに便利です。

- 1 左右の端をとめている板のクギをクギ抜きで抜いて、板をはずす。
- 2 クギ打ちされている上板をはずす。この場合、カナヅチで下からたたいてクギを浮かせてからクギを抜くようにすると簡単に抜ける。

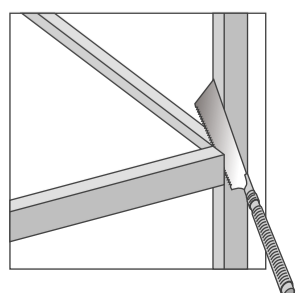


- 3 棧をはずす。これも上板と同じように、カナヅチで下から叩いてからクギを抜くとよい。
- 4 前板を左右の柱に止めている大きなクギをクギ抜きで抜いて前板をはずす。



中板がはずれない場合

まれに、壁際の棧と前板を組んでクギ打ちしてから押入れ内部の壁を仕上げている住宅があります。この場合は、壁を壊さないと前板をはずすことができません。そんなときは、柱にそって前板をノコギリで切り落とすのも方法です。ただ、これを切ってしまうと元の状態には修繕できませんから、借家などの場合は避けたほうが無難です。



押入れ収納グッズで収納力アップ

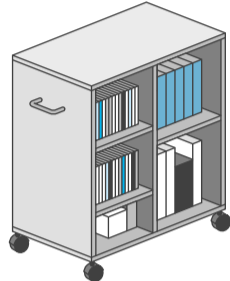
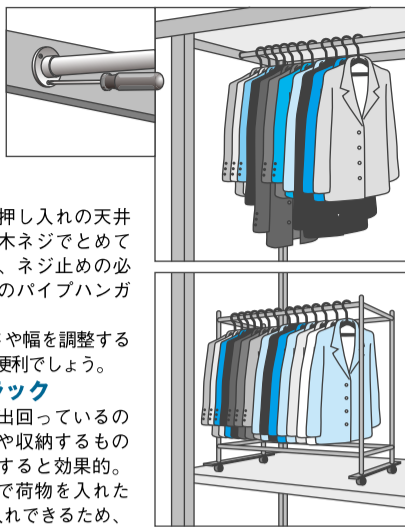
大掛かりなリフォームをしなくても、収納グッズを使えば、収納しやすい押入れにすることが可能です。上手に使いこなして、押入れを有効利用しましょう。

パイプハンガー、伸縮ハンガー

クローゼットのようにハンガーに掛けた衣類などを吊るすことができます。

パイプハンガーは、押し入れの天井の棧にパイプ受けを木ネジでとめて取り付けます。また、ネジ止めの必要のない伸縮タイプのパイプハンガーもあります。

サイズに合わせて高さや幅を調整することができる置き型も便利でしょう。
キャスター付きラック
いろいろなタイプが出回っているため、押し入れのサイズや収納するものに合わせて使い分けると効果的。キャスター付きなので荷物を入れたままラックごと出し入れできるため、奥の深い押し入れも無駄なく活用できます。



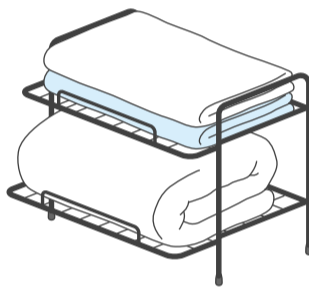
収納ラック

押し入れタンスだけでなく、いろいろなタイプ、サイズの商品が販売されています。どこに何をしまっているかがわかりやすい半透明な素材が便利です。



ふとん棚

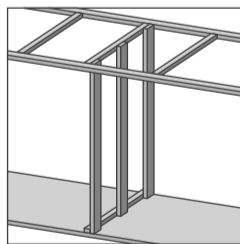
ふとんを取り出しやすく、しまいやすく、そして無駄なく収納することができます。通風がよくなるので、湿気対策にもなります。



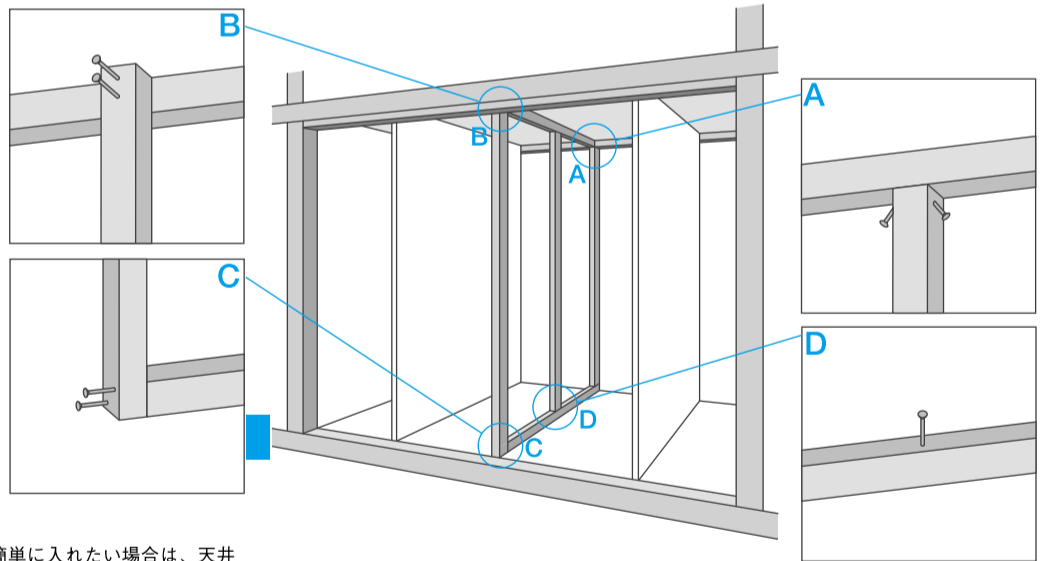
縦仕切りの入れ方

棧を組んで合板を貼る方法

角材で押し入れのサイズに合った棧を作ります。押し入れは天井や床の下地に構造材が入っているので、それをたよりにクギ打ちしてください。はじめに奥と手前の縦棧を入れてから、上下の横棧、最後に中の縦棧を入れるようにします。このとき、上の横棧は天井の構造材を利用してかまいません。クギの打ち方は右のイラストを参考に。斜めにクギを打つ際は、キリで下穴を開けてからクギ打ちし、クギシメでしっかりたたき込むようにします。最後に両面、あるいは片面に3mm厚の合板をクギ打ちすれば完成です。

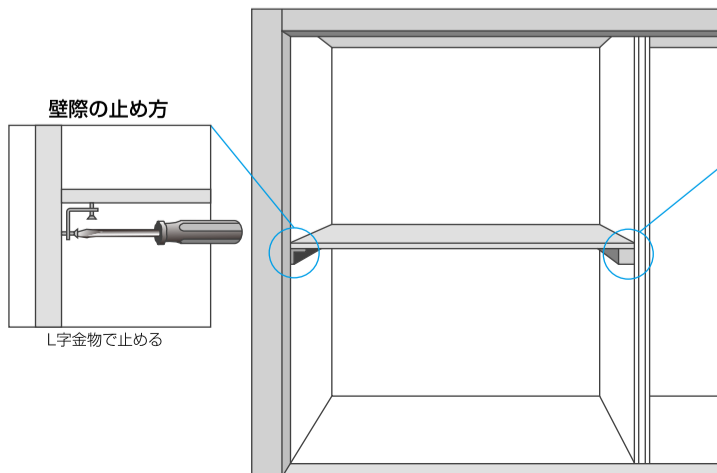


縦仕切りを簡単に入れたい場合は、天井の構造材の位置に合わせて床に横棧を打ち付け、それに縦板をクギで打ち付ける方法もあります。

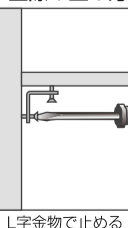


棚のつけ方

棚をつける場合は、壁と縦仕切りに受け木を取り付け、それに板をのせるようにします。棚板は厚さ15mmに角材で棧を組んでから化粧合板などを表面に貼るにしたほうがよいでしょう。

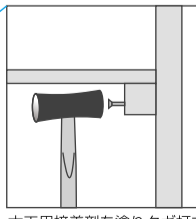


壁際の止め方



L字金物で止める

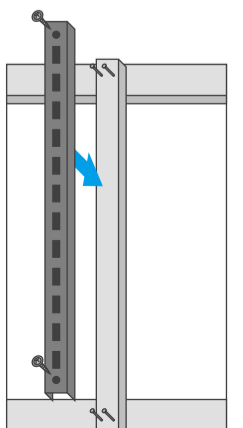
タテ仕切り際の止め方



木工用接着剤を塗りクギ打ち

塗り壁になっている場合は、横棧に角材をクギでとめてから取り付けるとよいでしょう。

奥や横の壁面に棚をつけたいときは、棚受けレールを利用するのも手。これなら段数や段の高さが自由に変えられるので、たいへん便利です。壁面が合板貼りの場合は、合板をクギ打ちしてある部分にある構造材にネジ止めを。



押入れの改造法

One Point Advice

押し入れの活用アイデア

押し入れの中段を床から72cmくらいの高さにすると、デスクがわりに使うこともできます。壁面や天井には壁紙を貼り、床は15mm以上の厚さの合板などを敷いて補強してからカーペットかクッションフロアを敷けば、ちょっとした家事コーナーや勉強のためのスペースが出来上がります。

